京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

https ://www.kyoto-catholic.net/

主のご降誕のお喜びを申し上げます

聖年の終わりに

2025年通常聖年も、いよいよ終わりが近づいてきました。聖年にあたりカトリック丹後教会宮津教会堂は「巡礼指定教会」となり、この一年、教区内外から多くの巡礼者、巡礼団の訪問を受けました。担当者として心からの喜びと感謝を申し上げます。また当教会堂は重要文化財として国の指定を受けた「宮津洗者聖若翰天主堂」でもあって、一般の観光客にも注目され、これまでにも多くの方々が訪れてくださいました。これもまた望外の喜びでした。今後、カトリック丹後教会としては、聖年を締めくくるに当たって、歴史ある天主堂がシノドス流の教会として、何が問われてきたのかを聖霊の導き、照らしのなかで振り返ってみたいと思います。

この天主堂が宮津の地に生まれたのは1896年、パリ・ミッション会の宣教師ルイ・ルラーブ神父による創建に始まります。以来129年の長きに渡り、今日まで続いてきました。明治29年生まれの129歳になる天主堂は、来年130歳の節目を迎えます。今は、耐震診断事業の只中にあって、修復工事にはまだ数年がかかるでしょう。そうした中でも、なお私たちはこの聖堂でミサを捧げ、神に祈り、訪問者を新たに迎えます。神様は、この聖堂を訪れる人々の心に密かに語り掛けられ、喜びのひと時、慰めの一瞬をお与えくださったのです。聖堂の静かな佇まいに聖霊が降り、柔らかな光で訪問者一人ひとりを包み込み、福音のみことばが風のように舞ったのです。

今年一年、巡礼聖堂としてたくさんの方々をお迎えできたこと、そのたびに聖霊が注がれたこと、そして訪問者の心に福音のみことばがささやき掛けられたことと、心から信じます。福音の告知は神の使命です。それが教会の本質です。私たちは、その中のたった一つの歯車であり、道具でした。何かを仕上げたのでもなければ、何らかの実を実らせたのでもありません。私たちは、ただそこにあって、為すべきことをしたまでです。何かをやり遂げられたとしても、それは大したことではない。それよりも、神が聖霊の息吹を注ぎ、聖霊が人の心を満たしたことのほうが大切なのです。おそらく、ルラーブ神父もそれを願って天から喜びの声を上げて祈っておられることでしょう。これからも、聖堂から醸し出される祈りと福音のことばが、訪れる人の心に触れ、喜びに満たされますように。

京都北部ブロック担当司祭
レデンプトール修道会
トマス頭島光

創建当時（1896年）の天主堂

12
2025

CJ-ERST　災害ワークショップ　「もし、南海トラフ巨大地震が起こったら」　9月26日

毎年のように局地的な豪雨や大きな竜巻、地震などが起こり、大きな被害が出ているのを報道で目にします。

京都教区内で甚大な自然災害が起こったとき、教区は、そして教会はどうなるのでしょうか。何をすればよいのでしょうか。

14年前に起こった東日本大震災のあと、教会ではカリタスジャパンを通して募金をしたり、現地にボランティアに行ったりしました。30年前の阪神淡路大震災でも、いろいろな形で協力したことを思い出します。

CJ-ERSTとは

CJ-ERST（シージェイ・イーアールエスティー）は、災害発生時に被災教区からの要請により現地に派遣され、災害対応が軌道に乗るまでの間、現地の教区スタッフのサポートを行う、災害対応の経験者数名で構成されたカリタスジャパンの緊急対応支援チームです。

今回、大塚喜直司教をはじめ、教区内の司祭、教区本部事務局職員、教区内の小教区から役員や防災管理者などがカトリック会館のホールに集まり、CJ-ERSTのメンバーを講師に、災害ワークショップを行いました。

まずは知ることから始めようと思い、私も参加させていただきました。

南海トラフ地震が起こったら…の想定で

発生の切迫性が高い南海トラフ地震が発生した場合、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度7となる可能性があるほか、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に10mを超える大津波の襲来が想定されています（気象庁HP参照）。

京都教区内の太平洋沿岸地域といえば、三重県です。三重県には現在9つの小教区があります。災害ワークショップでは、それぞれができる初動対応について考え、意見交換を行いました。仕事や立場、居住地、経験などによって気づくことや考えることに違いがあり、豊かな分かち合いとなりました。

「何かが起こった時、必要になるのはやはり人です。普段からの人間関係の良し悪しが問われます。司祭の間でも、司祭と信徒の間でも、教会の間でも、教会とその地域との間でもです」と、カリタスジャパン災害対応マニュアル準備編のコラムに小松史朗神父が書いておられます。周りの人々との良い関係を築きながら、常日頃から災害対応について話し合い、いざというときに対応することができるように、少しずつでも準備をしていくことが大切だと思いました。

皆さまの教会の近くの避難場所をご存じでしょうか。一度、市区町村が作成したハザードマップで確認をしてみてください。

カリタスジャパン発行「災害対応マニュアル」

2011年の東日本大震災での災害支援活動の経験を踏まえ、災害が起こったときに教区がどのように支援活動を行えばよいのか、その手引きとして「災害対応マニュアル準備編・対応編」（2冊セット）を2019年に発行しています。

CJ-ERST・・・カリタスジャパン Emergency Response Support Team

教区本部事務局広報担当　原山裕子

カトリックジャパンニュースの記事もお読みください　→

聖書講座　2025年度報告
ルカ福音書を読む
―同伴者イエスと歩む

1986年に始まった「聖書が好きになる講座」が前身の京都教区の聖書講座は、多くの講師と熱心な受講者、そして献身的にかかわってくださったそのときどきのスタッフのおかげで、途切れることなく聖書の学びを提供し続けてきました。

京都司教区聖書委員会

今年の聖書講座は「ルカ福音書」

今年は通常聖年、そのテーマは「希望はわたしたちを欺くことがありません（ロマ5・5）」であり、イエス・キリストがわたしたちの希望であることが祝われています。また典礼暦年C年の今年は、主日ミサの中でおもにルカ福音書が読まれてきました。

「イエスはわたしたちの希望」です。それはまず、イエスがわたしに限りない憐れみを示してくださったことによります。「イエスとともに歩む」というとき、わたしの方からイエスに近づいてともに歩む前に、イエスが先にわたしを見て、憐れに思い、近づいて、ともに歩んでくださったという事実があるからです。

この希望の年に、聖書講座「ルカ福音書を読む」を通して、イエスと歩みながらイエスの憐れみについて深めてきました。

対面講座を録画してオンライン配信

対面講座だった聖書講座を、コロナ禍以降、オンライン講座にシフトしました。会場に足を運ばなくても、自宅にいながらにして講師のお話を視聴できるということで、嬉しいことに毎年全国から申し込みがあります。しかし、コロナが落ち着いたこともあり、また京都教区の新しい地下ホールができたこともあって、今年度の講座から対面講座を復活させました。

講師には6年ぶりに京都までご足労いただき、受講者を前にお話ししていただきました。カメラの画面を見て話し、録画をするのとは違い、個性豊かな講師の皆さまは、受講者を前に生き生きとお話してくださいました。受講者からは時に笑いが漏れ、対面講座を受講しているようないきいきとした動画になったように思います。

今年度の報告

対面講座の受講者は55名（60名の募集）でした。京都教区の信徒47名のほか、大阪高松教区と名古屋教区からのご参加がありました。また、オンライン講座の受講者は192名で、京都教区以外に全国14教区から、そのほか信徒でない方やプロテスタントの信徒の方も受講してくださいました。

約半年間、12回の講座を通して、わたしたちとともに歩もうとしてくださる同伴者イエスこそがわたしたちの希望であるということを確認しました。どのような苦しみに出会おうとも、イエスとともに歩んでいることを心にとめて生きていきたいと思います。

この報告を読んでくださった皆さまも、来年度は受講生となっていただき、ともに学んでいただければと希望しております。

京都司教区聖書委員会

シノドスの歩みは2028年10月の「教会総会」まで続きます

日本のシノドス特別チームが開催したシノドス学習会

9月4日㈭　大阪高松大司教館　京都教区から３名が参加

１．オロリッシュ枢機卿（シノドス総書記）のお話を聞いて

シノドスの歩みにおいては、成果を上げようと焦る必要はない。対話を重ね、聖霊に導かれるというプロセスが大切。シノドスの歩みはトップダウンではない。各地域の文化や歴史的背景も尊重しつつ、よい賜物を交換しながら歩むのがシノドス流。

アジアのほとんどの国でキリスト教は少数派だが、それゆえ、キリスト教が多数派の国よりも宣教の意識がある。しかし、宣教は受洗者を増やすことが最終目的ではない。神と人、人と人、人と社会の交わりが豊かになるように継続的に養われて意味のある宣教になる。

２．霊における会話を体験して

困難なところに聖霊は働き、私たちはそこに出向くように招かれている。だから、会話の実りを実践することは重要。といっても、会話を通じて一つのよい結論を出すことだけが目的ではない。異なる意見の対立のうちに、聖霊の導きによる新たな可能性が示されているかもしれない。

京都司教区シノドスへの回答集計担当　衣笠教会　伊藤眞一郎

小教区評議会役員交流会
「共同体づくり」～シノドス的共同体「霊における会話」の体験～

10月11日㈯　河原町カトリック会館大ホール

今年も昨年に引き続き、教会における識別方法として勧められている「霊における会話」を体験しました。参加者は教区内の小教区役員34名、司祭６名でした。

「霊における会話」では、従来の分かち合いの「聞く」「祈る」という側面をより重視し、沈黙の祈りのうちに自分の心に浮かんだことを分かち合い、他者の言葉に耳を傾け、自分の思いでなく神様が何を望んでおられるかをグループで見分けていきます。今回は、「つながりの喜びを分かち合うために共同体ができること」をテーマに分かち合いました。

この方法は祈りながら一人ひとりの発言を丁寧に聞くので、ある程度の時間が必要です（今回は１グループ６～７名で1時間半程度）。それでも教会が「多数決や効率といった人間の考えではなく、神様の御心を実現する場」（大塚司教）であるために、また「あらゆることを通して語られる聖霊」（一場神父）に共同体で聞く姿勢を大切にしていくために、小教区でも機会を見つけて実践されることをおすすめします。

福音宣教企画室

教皇フランシスコが遺した最後の回勅
回勅　主はわたしたちを愛された

心とは何であるかを考察することから始め、イエスのみ心への信心について、福音書の記述と教導職の教えを再確認し、数多の聖人の信仰を具体的に示して、この信心がもつ共同体的・社会的・宣教的側面を深める必要性を説く。

原タイトル	DILEXIT NOS
原文発表年月日	2024/10/24
著　者	教皇フランシスコ
発行日	2025/10/3
出版社	カトリック中央協議会
価　格	本体価格1,100円（税込1,210円）

NWM（ネットワークミーティング）ってなに？

カトリックの青年、青年の活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集い、そこで今かかえている問題や信仰のこと等を分かち合い、交流する場であるとともに、いろいろな地域の青年や活動している青年と出会い、情報交換の場として、年２回、教区持ち回りで開催されています。（カトリック青年連絡協議会ＨＰより）

きちんと説明しようと思うと少し固めの説明文になってしまいますが、せっかく日本で同じ信仰を持つ仲間たちがいるのだから、年に２回はみんなで集まって、祈って分かち合って、仲良くなりましょう！　という集まりがＮＷＭ（ネットワークミーティング）です♪

ひとりひとりと仲良くなれるのはもちろんですが、他教区の青年たちがそれぞれの場所で、どのような活動をしているのかを知ることができるチャンスでもあります。日曜日に教会にミサには行きたいけど、知ってる人がいないと行きにくいな…と感じている青年の方もいると思いますが、全国の青年たちに出会うと、自分は一人じゃないんだ、と感じることができますよ！

次回は２月に大阪で開催の予定です♪　気になる方は、「カトリック青年連絡協議会」のＨＰを確認してみてくださいね！

河原町教会　橋本仁子

京都にて開催の第46回ＮＷＭ（2024年2月）

お　知　ら　せ

司　　教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

教　　区

聖フランシスコ・ザビエル司教座聖堂献堂記念日ミサ

日時：12月３日㈬ 10:30
場所：カテドラル河原町教会
司式：瀧野正三郎神父（司教総代理）

2025年聖年閉幕ミサ

日時：12月28日㊐ 10:30
場所：カテドラル河原町教会
司式：大塚喜直司教

広報委員会

教区時報２月号の原稿締切日は12月15日㊊です。

諸　団　体

ノートルダムクリスマス2025

日　時：12月18日㊍ 14:00
場　所：京都ノートルダム女子大学
　　ユニソン会館
内　容：聖劇・音楽・祈り
　　前後にミニバザー
　　入場無料・予約不要
問合せ：学校法人ノートルダム女学院
　　法人本部事務局 075-723-1072

京都カトリック混声合唱団

日　時：12月７日㊐ 14:00 聖歌練習
　　12月27日㊏ 17:30 練習後ミサ奉仕
　　団員募集中
場　所：河原町教会聖堂
問合せ：則武 隆 075-951-4283

コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練　習：12月11日㊍ 10:00
場　所：河原町教会２階楽廊
　　新会員募集中
問合せ：駒井和子 075-561-5971

聴覚障がい者の会・京都グループ

クリスマス手話ミサとパーティー

日　時：12月16日㊋ 10:30 ミサ
場　所：河原町教会聖堂と地下ヴィリオンホール
申込・問合せ：鎌田 修 090-1967-5636
　　kamadaosamu@gmail.com

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）
12月の主テーマ「神の愛を感じる」
＊12月１日㊊放送分は新メンバー松本准平氏（映画監督）のお話です

ＫＢＳ京都	㊊～㊏	朝５:55
	㊏	朝５:15
ラジオ関西	㊊～㊏	朝５:35
	㊐	朝６:05
毎日放送	㊊～㊏	朝５:45
	㊏	朝４:55

ラジオがなくてもスマホで聞けます。

カトリック京都働く人の家

読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日　時：12月14日㊐ 九条教会９時ミサ後
場　所：九条教会内働く人の家
対象者：どなたでも
問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。**点訳版**「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271